

# 明るみになる/なる一考察

波木井 優子

## 1. はじめに

令和二年度「国語に関する世論調査」(文化庁)の中で、ある内容を表現するのに、(a)．(b) どちらの言葉を使うかという調査結果が三つ報告されている。<sup>(1)</sup>その中で、「知られていなかったことが、世間に知られること」を表現するのに、「(a) 明るみになる」と「(b) 明るみになる」のどちらを使うかと言う問いに対し、それぞれ同程度の結果が報告されている。「本来の言い方とされてきたもの」は「(b) 明るみになる」で44.1%、「(a) 明るみになる」も43.0%あり、「(a) と (b) の両方とも使う」が10.5%、「(a) と (b) のどちらも使わない」が0.8%、「無回答」が1.6%であった。

「明るみになる」を選択された割合が43%に上った結果に疑問を持ち、先行研究を探したが、管見の限り見当たらなかった。そこで、「明るみになる/なる」がいつ頃からどのように使われているのか、実際の用例から調べてみることにする。

## 2. 辞書記述

「明るみ」について現行の国語辞書により調べる。まず、初出を調べるために『日本国語大辞典』(第二版)を、日々データが更新されている『デジタル大辞泉』で新しい意味の掲出状況を調べる。その他にも各種国語辞書により、意味記述に違いがあるか見てみる。

また、「暗闇の恥を明るみへ出す」ということわざとの関連性も見たいため、ことわざ辞典も含む各種辞書にこのことわざの記載があるか調べてみる。

### 2. 1 『日本国語大辞典』第二版

#### ○明るみ

(形容詞「あかるい」の語幹に接尾語「み」の付いたもの)

(1) 明るい所。明るいほう。

\* 雑俳・柳多留 - 五 [1770] 「あかるみへ引ずって出る仕立もの」

\* 俳諧・蔦本集 [1813] 春 「あかるみへ出過てさびしはつ桜」

\* 土 [1910] 〈長塚節〉 二一 「医者は縁側の明るみへ座蒲団を敷いて出た」

(2) おおやけの場所。表立った所。世間。

\* 雑俳・柳多留 - 二三 [1789] 「あかるみへ出されぬものを呼びたがり」

\* 一兵卒の銃殺 [1917] 〈田山花袋〉 一六 「自分のやった罪悪を明るみに出すばかりではなく」

\* 暗夜行路 [1921~37] 〈志賀直哉〉 三・二 「総ては明(アカ)るみへ持ち出される」

(3) 明るい感じ。陽気で楽しい雰囲気。

\*入江のほitori〔1915〕〈正宗白鳥〉七「栄一の帰省は勝代が予期したやうな明るみを家の中へ齎（もたら）さなかつた」

\*兄の立場〔1926〕〈川崎長太郎〉四「私は今迄どっちかと云へば日陰ばかりを歩るいて来た身の、嘗て味った事のないやうな人生の明るみを感じた」

『日本国語大辞典』では「明るみ」について、三つの意味が掲載されている。(1)は「明るい場所」の意、(2)は「おおやけの場所」の意、(3)は「明るい雰囲気」の意味である。全体の初出は(1)の1770年雑俳・柳多留であるが、(2)の意味の初出1789年も同じ雑俳・柳多留の作品で、共に江戸中期から見られる用例である。それに対して(3)の初出は1915年で大正時代に入ってから用法である。

『日本国語大辞典』に掲載されている全用例の助詞に注目すると、「明るみへ…」が多く、「明るみに…」は1917年の用例一つだけである。当初は「明るみへ」が一般的だったのであろうか。

## 2. 2 『デジタル大辞泉』

○明るみ

1 明るい所。

2 表立った所。公の場。世間。「悪事が一に出る」

〔補説〕2の意味で「明るみになる」と言うのは誤り。

『デジタル大辞泉』では「明るみ」について二つの意味が掲出されている。1は単に「明るい場所」の意、2は「おおやけの場」の意である。2では本稿で扱う「(b) 明るみに出る」の使用例をあげ、「悪事がおおやけに知られる」ことを表している。また、〔補説〕で「明るみになる」が誤りであると述べている。

以下に「明るみになる」について述べられている辞書記述をあげておく。

『明鏡国語辞典』（第三版）

○明るみ

①光が差して明るくなったところ。特に、暗がりの中でほの明るくなったところ。

「一にかざして見る」

②表だったところ。公の場所。「事件が一に出る」「隠された事実を一に出す」

注意「明るみになる」「明るみにする」は、それぞれ「明るみに出る」「明らかにする」「明らかにする」との混同から来た誤用。

『明鏡国語辞典』でも、「明るみになる/する」が「明らかにする/する」との混同から来た誤用であるとはっきりと述べている。

『三省堂国語辞典』（第七版）

○明るみ（名）

- ①あかるいところ (⇔暗がり)
- ②あかるく感じる状態。「視界に一を感じた」  
 明るみに出る句  
 [かくれていたことが] 世間に知られる。明るみになる [俗]。「不正が一」  
 他動明るみに出す。「問題を一」

『三省堂国語辞典』では「明るみになる」が俗語だというマークが記されている。

## 2. 3 その他辞書

『広辞苑』第七版

○明るみ

- ①明るいところ。明るい方。
- ②(特定の人だけではなく)関係者のすべてや、また一般の人に見えるところ。  
 「事実が一に出た」

『新明解国語辞典』(第八版)

○明(か)るみ

- 明るい所。「縁側の一に出る」/「不祥事が一に出る」[＝外部に知られたくない事柄が世間に広まる]

『大辞林』(第四版)

○明るみ

- ①明るい所。また、明るさ。「一で本を読む」
- ②表立った所。おおやけ。「事件が一にでる」

『集英社国語辞典』(第三版)

○明るみ

- ①明るい所。「一に出してよく見る」
- ②表立った公の場所。「事件が一に出る」▽悪事などの露見することという。

『岩波国語辞典』(第八版)

○明るみ

- 明るい所。明るい方。転じて、(人人に見える)表立った所。「事件が一に出た」

各種辞書を調べたが、『日本国語大辞典』以外はすべて同様の二つの意味が記載されている。本稿で調査する「明るみに出る」の「明るみ」は共通する「おおやけの場」の意味であることが分かる。

## 2. 4 『故事俗信ことわざ大辞典』

○暗がりの恥を明るみへ出す

かくしておけばすむようなみつともない事を、わざわざ世間に知らせること。暗闇の恥を明るみへ出す。

\*世俗俚言集（幕末～明治初期）「くらかりの恥を明るみへ出す」

○暗闇の恥を明るみへ出す

「暗がりの恥を明るみへ出す」に同じ。

\*諺苑（1797）「くらやみの辱をあかるみへ出す」

\*洒落本・甲子夜話（1801）坐敷の契話「くらやみの恥をあかるみで、つまらぬものはおれとおめへばかりだ」

\*人情本・閑情末摘花（1839～41）三・五回「お前がたへ咄し合を仕様かと思っただけけれど、もし万一不承知なときにゃア、暗やみの恥を明るみへ出すやうなもの」

\*いろは短句（1890～91）「暗地（クラヤミ）の恥を明るみへ出す」

このことわざは「暗闇」を「かくしていること」に、「明るみ」を「世間」に隠喩した言い回しで、これまで見た「明るみに出る」の「明るみ」と類似した意味である。初出は1797年『諺苑』で、これは江戸時代の俗語を集めた国語辞書である。

この他にも、このことわざについて掲載されていたものを以下にあげる。

『日本国語大辞典』第二版

○くらやみの恥を明るみへ出す

穩便にすれば人に知らせないですむ恥を、荒立ててかえって世間に暴露する。

\*洒落本・甲子夜話〔1801〕坐敷の契話「くらやみの恥をあかるみで、つまらぬものはおれとおめへばかりだ」

\*人情本・閑情末摘花〔1839～41〕三・五回「お前がたへ咄し合を仕様かと思っただけけれど、もし万一不承知なときにゃア、暗やみの恥を明るみへ出すやうなもの」

『日本国語大辞典』の初出は『故事俗信ことわざ大辞典』に二番目に掲出されているものと同じ1801年の洒落本で、初出より4年遅い。「くらやみの恥をあかるみで」だけの少し省略した形で使われていることから、このことわざは江戸後期にはそれで通じるくらいある程度一般化した言い回しだったのでないだろうか。

『デジタル大辞泉』

○暗闇（くらやみ）の恥を明るみへ出す

穩便におさめておけば知られずに済む恥を、騒ぎたてて世間に広める。

『広辞苑』第七版

○慣暗闇の恥を明るみへ出す

内緒にしていることを、騒ぎ立てて世間に知れわたらせる。

『デジタル大辞泉』にも『広辞苑』にも先の辞書と同様の意味が掲出されていた。しかし、このことわざは現代ではあまり耳にしないため、筆者は一つの仮説を立ててみた。江戸時代には使われていたこのことわざが、次第に短いフレーズで使われるようになり、そこから分離して、「明るみへ出す/出る」だけが使われるようになった。その後、近年に近づくにつれ助詞が替わり、「明るみに出す/出る」が一般的となった。

次章では、「おおやけの場」の意味での「明るみ…」がいつ頃からどのように使われているのか文献を調べることにする。

### 3. 用例調査

本稿の調査では、全媒体において「明るみ」と検索しヒットしたものを数え、内容を一つ一つ調べて分類する。その際、件数が少ないものは「あかるみ」という平仮名検索も同時に行いそのデータも含めるが、分類上は区別せず、すべて漢字の「明るみ」に集約する。

また、後ろの動詞は可能形や複合動詞なども、全て自動詞の辞書形にまとめる。つまり、「持ち出す」、「引き出される」などは「出る」に、「いたす」、「できる」などは「する」に分類するものとする。

#### 3. 1 中納言

国立国語研究所の中納言により、『KOTONOHA』まとめて検索で、書字形出現形に「明るみ」と「あかるみ」を入力して検索したところ、それぞれ以下の件数見つかった。

|                       | 明るみ   | あかるみ |
|-----------------------|-------|------|
| 現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ | 193 件 | 6 件  |
| 国語研日本語ウェブコーパス NWJC    | 29 件  | 3 件  |
| 日本語話し言葉コーパス CSJ       | 4 件   | 0 件  |
| 日本語歴史コーパス CHJ         | 8 件   | 0 件  |

まず、「日本語話し言葉コーパス CSJ」では4件しか見つからなかったことから、この言葉は話し言葉ではあまり使われないことが分かる。

次にそれぞれの用例の使われ方を調べたところ、表1のような結果が現れた。本稿で調査するものに共通することだが、「明るみ」「明るみに」「明るみへ」に分類したものは後ろに動詞が省略されながらも「明るみに出る」と同じ意味を持つものである。また、「×」は「明るみ」が本稿で調査する「おおやけの場」以外の意味で使われているものや、文脈から意味がはっきりしないものである。

表 1 : 中納言

|         | BCCWJ | NWJC | CSJ | CHJ |
|---------|-------|------|-----|-----|
| 明るみ     |       | 1    |     |     |
| 明るみに    | 1     | 6    |     |     |
| 明るみに出る  | 150   | 14   | 4   |     |
| 明るみになる  | 11    | 9    |     |     |
| 明るみにする  | 3     |      |     |     |
| 明るみにさらす | 2     |      |     |     |
| 明るみへ出る  | 3     |      |     | 2   |
| 明るみへさらす |       |      |     | 1   |
| 明るみとなる  | 1     |      |     |     |
| ×       | 28    | 2    |     | 5   |
| 計       | 199   | 32   | 4   | 8   |

まず、「日本語歴史コーパス CHJ」を見てみると、8 件のうち 3 件のみが「おおよけの場」の意味で使われていたが、3 件すべてが「明るみへ…」であった。これらは雑誌太陽や婦人倶楽部掲載の、いずれも 1925 年（大正 14 年）のものであった。

次に、「現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ」にも「明るみへ出る」が 3 件あり、その中にことわざの言い回しもあったため、これらを以下に示す。

・遂に私が妻を離別しなければならなくなつた家庭のトラヴルです。私は事を明るみへ出さず、元々通りに、円満にをさめんとして出来るだけ、忍び耐へ、(婦人倶楽部 1925)

・見ぬ事清しの影穿鑿、くら闇の事をあかるみへ持出されて、娼妓の身の上には迷惑に及ぶ事少なからず (内なる江戸 1994)

また、「明るみになる」は「現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ」に 11 件、「国語研日本語ウェブコーパス NWJC」に 9 件見られた。「明るみに出る」と「なる」だけで見た「明るみになる」の割合を計算すると、BCCWJ では 6.8%、NWJC では 39.1%であった。

さらに、BCCWJ では「明るみにする」も 3 件、「明るみとなる」も 1 件見つかった。以下にこれらの中で一番古い用例を示す。

・秘密の一端が明るみに出たのは、終戦直後ハバロフスクで開かれた極東軍事裁判

においてで (1981 悪魔の飽食)

・去る十月の八日、九日の両日、この事件が報道によりあかるみになりました段階でテレビ朝日から任意の形で事情の聴取を行いました (1985 国会会議録)

・必要なのは嫌なことも包み隠さず明るみにできる文化シスコは、これまで自社をビジネスモデル化し、バリューチェーンをつくり込む (2001 21世紀に勝ち残る IT スピード経営)

・日本企業は、収益性や株価の低下、危機管理の欠如、相次いで明るみとなった不祥事により、多くの批判にさらされることとなった。(2004 経営学を創り上げた思想)

### 3. 2 東洋文庫

JapanKnowledge Lib の『東洋文庫』により、「明るみ」or「あかるみ」で検索したところ、91 件見つかった。これらを調べた結果が表 2 である。

表 2 : 東洋文庫

|         |    |
|---------|----|
| 明るみに    | 1  |
| 明るみに出る  | 60 |
| 明るみになる  | 1  |
| 明るみにさらず | 4  |
| 明るみにもどす | 1  |
| 明るみにおいて | 1  |
| 明るみへ出る  | 4  |
| ×       | 19 |
| 計       | 91 |

『東洋文庫』では「明るみにする」は見られず、「明るみになる」が 1 件のみ見つかった。「明るみに出る」と「なる」だけの割合を計算すると、「明るみになる」はわずか 1.6%であった。以下に「明るみに出る」、「明るみへ出る」、「明るみになる」の一番古い用例をあげる。

・こうして使者は捕えられ、書面も明るみにでることになったが、それにはこう認められていた。(1964 薔薇園 イラン中世の教養物語)

・歴史の正しい審判を終って、堂々と明るみへ出されるようになった。(1965 夢の七十余年 西原亀三自伝)

・事態があかるみになるのをおそれ、そこで軍の人々数百人を煽動し、計略を定めて謀反を起こした。(1981 西陽雑俎)

### 3. 3 CiNii Articles

「CiNii Articles」により先行研究を探す際、言葉の研究についての論文は見つからなかったが、表題と抄録に「明るみ」を含むものが思いの外多かった。そこで、フリーワードに「明るみ」と入れ、ヒットした 280 件を調べてみる。結果を表 3 に示す。

表 3 : CiNii Articles

|           |     |
|-----------|-----|
| 明るみに      | 58  |
| 明るみに出る    | 162 |
| 明るみになる    | 27  |
| 明るみにする    | 7   |
| 明るみにあらわれる | 1   |
| 明るみへ      | 7   |
| 明るみとなる    | 3   |
| 明るみなる     | 1   |
| ×         | 14  |
| 計         | 280 |

「CiNii Articles」では表題に「明るみに」のみで、「明るみに出る」と同様の意味で使われているものが多く見られた。確認できた「明るみに出る」と「明るみになる」の一番古い用例はどちらも 1938 年のものであったのに対し、「明るみにする」の一番古い用例は 1998 年で 60 年後のものであった。また、「明るみに出る」と「なる」だけで見た「明るみになる」の割合は、16.7%であった。

以下にそれぞれの一番古い用例を古い順にあげる。なお、1 件見つかった「明るみなる」の用例もあげておくが、助詞が脱落した誤字のようにも見える。

・最近明るみに出た反射望遠鏡の尖端兒シュミット・カメラの製作記 : f1. 5 寫野は 10 度に及ぶ Construction of Schmidt Camera (天界 18(210), 371-376, 1938-09-25 東亞天文協會)

・鉄鋼国有化問題で大揺れ—英労働党の内紛明るみへ (世界週報 46(21), 6-8,



1965-05-25 時事通信社)

・米・後期から景気上昇一対米輸出貿易漸やく明るみに (貿易クレームと仲裁 14(11), 17-19, 1967-11 国際商事仲裁協会)

・その結果、細胞の成長、接着、転移といった生物学的現象においてガレクチン-3 の関与が明るみになってきた。(Trends in glycoscience and glycotecchnology 9(45), 69-75, 1997-01-02FCCA (Forum: Carbohydrates Coming of Age))

・クラリッサにとっては自分と他者の間を、そして彼女の存在を切り裂く敵意として意識され、「存在の不安」を明るみにする。(川崎医療福祉学会誌 8(2), 237-247, 1998-12 川崎医療福祉大学)

・斬人斬馬 経済 旧悪が明るみとなり”ご難”続きの三菱 UFJ (政経人 54(2), 30-33, 2007-02)

・2008 年、年明け早々、沖縄から「靖国神社合祀取消」が提訴されるということが明るみになった。(沖縄国際大学社会文化研究 11(1), 23-41, 2008-03 沖縄国際大学社会文化学会)

### 3. 4 ヨミダス歴史館

#### 3. 4. 1 明治・大正・昭和 1874~1989

「明治・大正・昭和 1874~1989」タブにおいて、「明るみ」でキーワード検索をしたところ 5 件、見出し検索をしたところ 236 件ヒットした。そのうち 1 件は同じ記事であったため、合計 240 件を調べたところ、表 4 の結果となった。

表 4 : ヨミダス明治・大正・昭和

|        |     |
|--------|-----|
| 明るみ    | 32  |
| 明るみに   | 95  |
| 明るみに出る | 17  |
| 明るみへ出る | 6   |
| 明るみへ   | 72  |
| ×      | 18  |
| 計      | 240 |

見出し検索ということもあるが、「明るみに」が一番多く 95 件、「明るみへ」も 72 件見つかった。助詞を見てみると、「に」が使われているものが計 112 件、「へ」が使

われているものが計 78 件で、両方通用していたことが分かる。

また、昭和期までの新聞用例では「明るみになる」も「する」も 1 件も見つからなかった。以下にそれぞれの一番古い用例を、古い順にあげる。

- ・ 明るみへ出された帳消提議の真相 (1921. 7. 17 朝刊)
- ・ 明るみに出た戦時負債問題 (1922. 8. 4 朝刊)
- ・ 猥映畫で明るみえ (1925. 4. 8 朝刊)
- ・
- ・ 贈賄金不拂ひで不正明るみに (1929. 3. 3 朝刊)
- ・ 保谷市政 腐敗ぞくぞく明るみ (1968. 11. 26 夕刊)

筆者はことわざから分離して、まず「明るみへ出る」が広がった後、時期を置いてだんだん「明るみになる」が優勢になったのではないかという仮説を立てた。しかし、助詞「に」は「へ」からそれほど遅れて使われるようになったわけではなかったことが分かる。

### 3. 4. 2 平成・令和 1986～

「平成・令和 1986～」タブにおいて全文検索したところ、6851 件ヒットした。そのうち、本文を確認できなかったものを除き、一つの記事に複数使われているものをすべて数えると 6811 件あった。それらを調べた結果が表 5 である。

表 5：ヨミダス平成・令和

|          |      |
|----------|------|
| 明るみ      | 42   |
| 明るみに     | 261  |
| 明るみになる   | 5951 |
| 明るみになる   | 489  |
| 明るみにする   | 16   |
| 明るみにさらす  | 1    |
| 明るみにもたらす | 1    |
| 明るみへ     | 1    |
| 明るみへ出る   | 1    |
| 明るみとなる   | 1    |
| ×        | 47   |
| 計        | 6811 |

まず、「ヨミダス平成・令和」では、「明るみに出る」が圧倒的に多く 5951 件もあり、次いで「明るみになる」が 489 件見つかった。「明るみに出る」と「明るみになる」だけで見た「明るみになる」の比率は 7.6%であった。

次に、助詞について見ると、「へ」が使われているものが極端に減り、合計 2 件だけであった。先に助詞「に」の初出が「へ」の初出とそれほど時期を隔てていなかったことを見たが、その後、平成期までの間にほとんど「に」に取って代わっている。以下に「明るみになる」と「明るみにする」のここでの初出をあげる。

- ・金融筋は「不人気が明るみになるのを恐れ、過少申告するよう大蔵省が“圧力”をかけてきたようだ」と打ち明けている。(1986. 12. 7 東京朝刊)
- ・消極的安楽死が明るみにされたのも異例なら、これを妥当とする見解は前例がない。(1991. 6. 2 東京朝刊)

また、同じ記事の中に別の言葉が使われているものも一定数見られたため、古いものを 3 件あげておく。

- ・松下冷機では四機種故障の多発が明るみになった今春以降も、…/明るみに出てから半年以上たつての対応は、後手に回ったと非難されてもやむをえまい。(1992. 11. 10 大阪朝刊)
- ・経常利益の十年分に相当する千五百二十五億円の巨額の損失を出していたことが明るみに出た。/損が明るみになったのは、これらの手段やルールが制度改定で認められなくなったからだ。(1994. 4. 17 東京朝刊)
- ・捜査の失態や不自然な動きが次々に明るみに出たことで、「捜査に不当な介入があったのでは」との疑惑が…/ベルギー社会、特に南部仏語圏におけるマフィア勢力の影響も明るみになった。(1996. 09. 25 東京朝刊)

### 3. 5 梵天版

先に調べた「国語研日本語ウェブコーパス NWJC」で 32 件のデータが確認できたが、これは 2000 年代までのデータで、別途「梵天版」には 2014 年 10 月～12 月の多数のデータが格納されている。<sup>②</sup>そこで、「梵天版」で「明るみ」と入力して文字列検索を行ったところ、16420 件ものデータが現れた。膨大な数だったため、その内 1000 件のみを調べたところ、1035 件の「明るみ…」が確認できた。結果は表 6 である。

表 6：梵天版

|     |   |
|-----|---|
| 明るみ | 4 |
|-----|---|

|          |      |
|----------|------|
| 明るみに     | 89   |
| 明るみに出る   | 529  |
| 明るみになる   | 287  |
| 明るみにする   | 43   |
| 明るみにある   | 2    |
| 明るみにさらす  | 1    |
| 明るみに巻き込む | 1    |
| 明るみに持ち越す | 1    |
| 明るみに持ち来す | 1    |
| 明るみに露見する | 1    |
| 明るみとなる   | 9    |
| ×        | 67   |
| 計        | 1035 |

「明るみに出る/なる」だけで見た「明るみになる」の割合は35.2%で、先のNWJCの割合も少数の中で割り出した数値ではあるが39.1%であった。つまり、「明るみになる」は書籍や新聞の中ではそれほど多く見られなかったが、ウェブ上では4割に迫る比率であった。このことで、「国語に関する世論調査」において、「明るみになる」を選んだ人が43%もいたという結果が妥当な数字に見えてくる。また、「明るみにする」も43件と比較的多く、初めて目にする「明るみにある」の形も2件見られた。ウェブ上では「明るみ」が「おおやけ」の意味で実に多様に使われていた。

以下に、初出の「明るみにある」や同一ウェブ上に違った形が使われているものなどをあげておく。

- ・キーマンと並走した時点で真相が明るみにある。
- ・大阪や東京でも同様の事件が明るみにでました。…中略…不正入手により大きな利益を得ていたことも明るみになっています。
- ・犯行現場、取り調べの現場の真相が明るみになり、いかなる重罪を犯してきたのが明るみにせられるつくり…
- ・このブログが明るみに出してからろくなことがありませんw明るみ=ガッコ

なお、1000件のみの調査では助詞の「へ」を使った形は見つからなかったが、念の

ため「明るみへ」と入力し文字列検索を試みたところ、52件ヒットした。参考までに詳細を示すと、「明るみへ」が3件、「明るみへ出る」が9件、「明るみへ映る」が1件、対象外のものが39件であった。つまり、全体数16420件から見ると、「明るみへ…」はかなり少なく、「ヨミダス平成・令和」の「明るみへ…」も2件だけだったことから、平成期以降は助詞「に」の形が一般的になっていると言えるだろう。

#### 4. 考察

##### 4.1 「なる」の割合

「ヨミダス平成・令和」において、各年代に渡り大量のデータが抽出できたため、「明るみに出る」と「なる」のみを5年毎に並べ、年代別に「なる」の割合を見てみることにする。

なお、最初の年代は4年分、最後は2年分のデータである。

表7：年代別「明るみになる」の割合

| 年      | 1986～1989 | 1990～1994 | 1995～1999 | 2000～2004 |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 明るみに出る | 776       | 1042      | 1134      | 1183      |
| 明るみになる | 12        | 51        | 89        | 174       |
| なるの割合% | 1.5       | 4.7       | 7.3       | 12.8      |

| 2005～2009 | 2010～2014 | 2015～2019 | 2020. 2021 |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1012      | 429       | 304       | 64         |
| 104       | 40        | 14        | 5          |
| 9.3       | 8.5       | 4.4       | 7.2        |

新聞における「明るみになる」の使用は、「ヨミダス平成・令和」がスタートする1986年から少しずつ増え、一番多いのが2000～2004年の12.8%であった。しかし、それを境に少しずつ減少に転じていることが分かる。

##### 4.2 年齢差

令和二年度「国語に関する世論調査」では、「明るみに出る/なる」を選択した人の年齢を10代～70代に区分した結果も報告されている。それによると、20代、30代、40代は「明るみに出る」より「明るみになる」の方が上回っている。しかし、差は微々たるもので、20代に関していうと、「明るみになる」が42.9%に対して「明るみに出る」は42.5%、50代については、「明るみになる」が43.5%に対して「明るみに出る」は44.6%である。また、最も多く「明るみに出る」を選択したのが60代で48.7%、最も多く「明るみになる」を選択したのが40代で、47.6%となっている。

本稿で一番多く「明るみになる」が見られた「梵天版」において、ウェブサイトの書き手の年齢が調べられれば、この報告の裏付けが取れるかもしれないが、実際には不可能である。そのため、ここではこの報告を参考値として押さえておくこととする。

#### 4. 3 助詞

先に「ヨミダス明治・大正・昭和」において、助詞「へ」も「に」も両方使われていたが、平成に入ると、「に」が一般的になっていたことを見た。それでは、いつ頃から「に」が優勢になったのであろうか。「ヨミダス明治・大正・昭和」の用例の中から、助詞に注目してこの間の使用状況を見てみることにする。結果を表8にまとめる。

表8：年代別助詞の比較

|     | 1920年代 | 1930年代 | 1940年代 | 1950年代 |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| 「へ」 | 13     | 18     | 12     | 23     |
| 「に」 | 4      | 4      | 0      | 1      |
| 計   | 17     | 22     | 12     | 24     |

| 1960年代 | 1970年代 | 1980年代 | 計   |
|--------|--------|--------|-----|
| 10     | 2      | 0      | 78  |
| 26     | 49     | 28     | 112 |
| 36     | 51     | 28     | 190 |

これを見ると、1950年代までは圧倒的に助詞「へ」が優勢だったことが分かる。しかし、1960年代に逆転し、1970年代には「に」が圧倒的に優勢になっている。1980年代には「へ」は1件もなかったため、参考までに「ヨミダス平成・令和」の1986～1989年を集計してみると、やはり「へ」は0件、「に」は817件と完全に「に」に交代している。

#### 4. 4 ことわざとの関連性

『新編日本古典文学全集』において、「明るみ」or「あかるみ」で検索したところ、江戸後期の用例が以下の1件だけ見つかった。

- ・くらやみの<sup>はぢ</sup>恥を、とうと<sup>しまつ</sup>あかるみへぶぢまけて仕廻た。(東海道中膝栗毛 P156)

これは先に辞書記述で見たことわざによる言い回しであるが、今回の用例調査でことわざとして使われていたものは、この他にはBCCWJの(内なる江戸1994)1件しか見つからなかった。この書籍は平成6年出版のものであるが、歴史的仮名遣いで書か

れ、本の帯曰く「現代の目でゆがめられてきた江戸文化を、その時代意識にそって再現した」<sup>(3)</sup>ものであるため、江戸期のことわざが現れたのであろう。

これまでの調査では明治期の用例が見つからなかったため、雑誌記事索引データベース「ざっさくプラス」において、古い用例を確認してみた。すると、明治期の用例は「明るみへ」だけの題名や、それが「おおよけの場」を意味するものかどうか判断がつかないものが多かった。しかし、「おおよけ」の意味で、しかもことわざを想起させるような題名が見つかった。その他にも、「ヨミダス明治・大正・昭和」の初出より古い「明るみへ」の用例も見つかったため、合わせてあげておく。

- ・貴衆両院議長黒闇!明るみの恥! (1906. 11, ハーピー, 1(5))
- ・暗闇から明るみへ (1926. 08, 市立名古屋図書館館報, (8月號)(32))
- ・少女思ひ出の記(四) 明るみへ (1914. 2. 15, 婦人評論, 3-4)

これらのことから、ことわざの言い回しは江戸期のものであったが、明治期、大正期にことわざと似通った短い言い回しが見つかったことから、「明るみへ出る」「明るみになる」という言葉がこのことわざから派生したように思われる。しかし、今回の調査では探し出せた用例が少なかったため、もう少し調査の幅を広げる必要があるだろう。

#### 4. 5 まとめ

自身で調査した全媒体の中で見つかったそれぞれの形の初出を、古い順に並べてみると表9のようになった。これを踏まえ、本稿の用例調査を通して分かったことをおおまかにまとめる。

表9：初出

|                   |           |    |    |
|-------------------|-----------|----|----|
| くらやみの恥をあかるみへぶちまける | 1802～1814 | 江戸 | 書籍 |
| 黒闇!明るみの恥!         | 1906      | 明治 | 雑誌 |
| 明るみへ              | 1914      | 大正 | 雑誌 |
| 明るみへ出る            | 1921      | 大正 | 新聞 |
| 明るみになる            | 1922      | 大正 | 新聞 |
| 明るみに              | 1929      | 昭和 | 新聞 |
| 明るみ               | 1968      | 昭和 | 新聞 |
| 明るみになる            | 1981      | 昭和 | 書籍 |
| 明るみにする            | 1991      | 平成 | 新聞 |

|        |      |    |     |
|--------|------|----|-----|
| 明るみとなる | 2004 | 平成 | 書籍  |
| 明るみにある | 2014 | 平成 | ウェブ |

江戸期に洒落本などで使われていた「暗闇の恥を明るみに出す」ということわざは、明治期の雑誌で簡略化された形で使われているのを見ることができた。次の大正期には「明るみへ」「明るみへ出る」という決まった形で新聞の見出しや本文、また雑誌などで使われていた。そして、程なく助詞が交代した「明るみに出る」「明るみに」も使われていたことを確認できたが、1950年代まではまだ「へ」が優勢であった。その後、助詞が「に」に移行し始めるのは1960年代からで、次の1970年代には「に」が圧倒的優勢になっているのが見られた。

一方、「明るみになる」という言葉は、1981年に先ず書籍に現れ、新聞で見られるのは5年後であった。平成に入ると「明るみになる」の使用率が2000～2004年をピークに増えていき、その年代を境に少しずつ減少傾向に転じていた。また、1990年代に「明るみにする」という言葉も新聞の中に見られ、2000年代には「明るみとなる」という言葉も書籍の中に見られた。しかし、新聞の中では減少傾向にあった「明るみになる」は2014年のウェブ上では、「明るみに出る/なる」だけで見ると4割に迫る割合で使われていた。さらに、ウェブ上では「明るみにある」という新しい形も見られた。

## 5. おわりに

本稿の調査で、「おおやけの場」の意味で使われた「明るみ…」という言葉の初出や年代別使用状況を見ることが出来た。しかし、論じきれなかった部分も少なからず残っている。

まず、新聞において「明るみになる」が2005年以降減少に転じた理由である。社会の中でこの言葉が誤用だということが取り上げられ、書き手に規範意識が働いたためであろうか。2020と2021年の2年間の集計では7.2%と若干プラス傾向にあるため、2022年以降のデータも合わせて集計した後、改めて考えることとする。

次に、ことわざとの関連性である。証拠となるだけの数の用例が見つからなかったため、現段階では想像の域を超えない。そのため、調査文献を増やし、明治・大正期の用例を中心に抽出し、どのような形で使われているか再調査をしたい。

次に、媒体による差である。2014年のウェブ上では、「明るみになる」の4割近い使用が見られたが、同時期、つまり2010～2014年の新聞では8.5%の使用であった。話し言葉ではあまり使われないこの言葉が、書き言葉の中でこのように差があるのはなぜだろうか。ウェブサイトの管理者と新聞記者の年齢を比べることは困難であるし、前章で見た「国語に関する世論調査」の報告では、年齢差は顕著ではなかった。そのため、書物のフォーマル度の違いという要素しか思い当たらない。これについても、もう少し考えてみたい。

最後に、地域差である。「ヨミダス平成・令和」の用例調査を行った際、「明るみになる」が使われていたのが、中部・大阪・西部の地域版に多かった。念のため、「明るみになる」489件の出どころを調べてみると、この三つの地域版はそれぞれ35件・99



件・50件で、合わせると全体の37.6%であった。「明るみ」でヒットした全体数では、全国版が5482件に対して、地域版（東京も含む）は1369件と2割もなかったことからすると、「明るみになる」の出現に地域差があるのかもしれない。しかし、記事を執筆した記者がそれぞれの地域出身とは限らないため、本稿では調査を見送ることにした。

以上、これらのことを今後の課題としたい。

#### 【注】

- (1) 令和二年度「国語に関する世論調査」（文化庁）では、「(1)明るみに出る、(2)寸暇を惜しんで、(3)二つ返事」の三つのことばについて調査結果が報告されている。
- (2) 先に調査した中納言コーパスでは2000年代のデータまでしか格納されていないが、このコーパスは2014年10月～12月にインターネット上で8399万2556のURLから収集した258億3694万7421のコーパスを収録し、文数では14億6314万2939、のべ文数は38億8588万9575に上るデータが格納されている。しかし、2021年12月24日をもってサービスが停止されている。
- (3) 中野三敏（1994）『内なる江戸—近世再考』本の帯より。

#### 【データベース】

日本国語大辞典 詳細検索 (japanknowledge.com) (最終参照日 2022. 1. 16)  
デジタル大辞泉 (japanknowledge.com) (最終参照日 2022. 1. 16)  
すべてのコンテンツ 詳細検索 (japanknowledge.com) (最終参照日 2022. 1. 16)  
故事俗信ことわざ大辞典 詳細検索 (japanknowledge.com) (最終参照日 2022. 1. 16)  
東洋文庫 詳細検索 (japanknowledge.com) (最終参照日 2022. 1. 16)  
新編日本古典文学全集 詳細検索 (japanknowledge.com) (最終参照日 2022. 1. 24)  
コーパス検索アプリケーション『中納言』 (ninjal.ac.jp) (最終参照日 2022. 1. 18)  
ヨミダス歴史館 (yomiuri.co.jp) (最終参照日 2022. 1. 24)  
国語研日本語ウェブコーパス (NWJC) 梵天版:2014-4Q data (ninjal.ac.jp) (最終参照日 2021. 12. 24)  
CiNii Articles - 日本の論文をさがす - 国立情報学研究所 (最終参照日 2022. 1. 28)  
雑誌記事索引データベース「ざっさくプラス」(https://zassaku-plus.com/) (最終参照日 2022. 1. 24)

#### 【参考文献】

新村出（2018）『広辞苑』（第七版）岩波書店  
北原保雄（2020）『明鏡国語辞典』（第三版）大修館書店  
見坊豪紀他（2014）『三省堂国語辞典』（第七版）三省堂  
山田忠雄他（2020）『新明解国語辞典』（第八版）三省堂  
森岡健二他（2012）『集英社国語辞典』（第三版）集英社  
西尾実他（2019）『岩波国語辞典』（第八版）岩波書店  
松村明（2019）『大辞林』（第四版）三省堂  
中野三敏（1994）『内なる江戸—近世再考』